

第1回運営委員会 4月29日(土)



1部『総会』2部『みんなで語ろう!』
長く続いたコロナ禍。思うように活動できなかったからこそ、今、あらためて皆で「ボランティアのいいところ」を見つめ「今後の課題」と向き合いました。
次世代にどう引き継ぐか…高齢化が大きな課題の中、時代の変化や社会情勢に伴ってボランティアの形や活動の在り方も変容している。「今後は時代に即したボランティア活動を模索することが重要」との声が挙がりました。

バス研修会 8月29日(火)



筑波宇宙センターJAXA 見学
テレビの世界でしか知らなかった管制室や、宇宙と交信している現場の職員に会えて興奮しました。想像を絶する訓練を経てパイロットになることも。ロケットを飛ばす意味は「医療や生活の安全のため」進歩に繋がっていることを知りました。【参加者の感想】
*宇宙が身近に感じられた*勉強になった「きぼう」をアプリで見えます
*皆さんの笑顔に出会えてよかった♡

「市民活動発表会2023」11月19日(日)



～つたえるひろがる、私たちの活動～
ウィズコロナの生活様式に合わせた内容で、4年ぶりに開催されたイベントとしてV連では車イス体験やビクトグラムクイズなどの体験コーナーで参加しました。
【参加者の感想】*坂道は、乗っている人が落ちてケガをしてしまうから、後ろ向きで押すことがわかりました。*普段見ているように見たことのないマークを勉強できてよかった。*楽しかった!



第2回運営委員会 12月3日(日)



1部『4月～12月の活動報告』2部『車イスの講習会』
佐倉市社会福祉協議会の岡本一氏を講師に迎え、障がい者のサポートや高齢社会が進むにつれ使用機会が増えるであろう車イスについて「正しい車イスの使い方」や「機能」について学びました。ボランティア活動の一助になればと実施しました。【受講者の感想】*車イスの扱いは難しい*坂道の降り方で、後ろが見えず乗っているほうも怖かった!



予告 第42回ボランティアのついで
日時:令和6年2月11日(日・祝) 10時～13時
会場:志津コミュニティセンター

里山でつながる・めぐる
～環境・人・いのち～

★「環境」と聞いて
イメージすることは?
★里山で活動されている方々のお話
★プチ里山体験
★とりかえっこ(リユースをはじめよう!)
みんな環境の事、考えてみませんか?

第42回ボランティアのついで



予告 障害者作品展「ふれあいギャラリー」に協力

日時:令和6年2月23日～25日(金～日)
会場:佐倉市立美術館3階市民ギャラリー
佐倉で活動されている障がいのある方が創作した絵画、書道、写真、手芸、陶芸などの発表の場として、また、市民の方に障がいを知り理解する機会となることを目的としています。
心のこもった素敵な作品が多数展示されます。是非ご来場ください。



リモート交流会 随時

身近な話題「健康について」をテーマに、会員の方々と交流しました。また、ボランティアについて語り合い共有することで、新しいアイデアも浮かびワクワクした気持ちになりました。

編集後記

長いコロナ禍の中で、ふれあいの機会も制約されてきました。やっと制限が緩和されボランティア活動も少しずつ動き出す中、傾聴ボランティアでは、自分の想いを伝えたい、聞いてもらいたいという気持ちを持っていること、手話サークルでは、手話を通して聞こえる人も聞こえない人も対話を楽しんでいることがわかりました。
人は他者との交流を通じてこそ自分を表現できるのですね。
H.N



使用済み切手 回収しています!

放っておけば捨ててしまう使用済み切手。たくさん集め整理し、業者の方に買ってもらいます。買い取り金額はわずかですが、それを社会福祉協議会に寄付しています。ご協力よろしくお願いします。
【使用済み切手回収の会】
【回収箱設置場所】西部・南部福祉センター、日井・志津・ユーカリが丘郵便局、商工会議所、志津コミュニティセンター、千代田染井野ふれあいセンター、佐倉市社会福祉協議会

はらっぱ

第50号 2024年2月5日発行

編集・発行
佐倉市ボランティア連絡協議会(V連)
はらっぱ編集委員会
〒285-0013 佐倉市海隅寺町87
佐倉市ボランティアセンター内
TEL 043-484-6198 FAX 043-486-2518



作画・大橋カズミ

「V連」って知ってる?

佐倉市ボランティア連絡協議会(V連)は、佐倉市社会福祉協議会にボランティア登録している団体や個人、かつ、V連の趣旨に賛同したボランティア個人や団体で運営する組織です。会員同士の横のつながりを大切に、様々な行事を通して交流や情報交換をしています。1つの団体、一人のボランティアではできないことも、連携することで新たな活動の幅を広げています。ぜひ一緒に活動しましょう!

V連HP QRコード



手話サークル「希望」

これまで

手話サークル「希望」は昨年創立 30 周年を迎えました。設立当初から佐倉市ろう者協会等と協力して福祉学習を支援したり、福祉祭り等で手話体験コーナーを設けるなど、手話の普及と聴覚障がい者への理解促進に努めてきました。また、高齢者介護施設で聴覚等に障がいのある方との会話を楽しむ「お話ボランティア」などの活動も行ってきました。

平成 12 年 3 月には他団体と協力して、佐倉市に手話通訳の設置を求める要望書を提出し、翌年 9 月に設置事業が開始された後も、緊急時の対応など制度の充実を目指して要望活動を継続するなど、聴覚障がい者の情報保障に努めてきたところです。

さらに、平成 26 年 6 月には手話言語法制定を求める意見書の提出について、市議会に請願書を提出(採択)するなど聴覚障がい者の権利と生活を守るための運動を続けてきました。

今、そしてこれから

聴覚障がい者と共に、会の運営は役員を中心に一人一役を担い、軽スポーツ・ハイキング等の行事の他に、聴覚障がい者の理解につながる映画『咲む』の上映会、小中学校の福祉学習のサポート等の対外的な活動にも取り組んでいます。例会は会員を2班に分け、交代でトピックスの提供や学習会の運営を担当しています。例会後半に活動報告や各種活動の協力者募集・調整を行っています。

会員の入会のきっかけや目的、活動への思いも様々ですが、このサークルが聴覚障がい者にとってコミュニケーションの壁のない楽しくくつろげる場でありたいと思います。



そのためには、例えば、聞こえる人達にとっては、何気ない雑談であっても、話の内容が届かない人がいるということを意識して行動したいものです。

手話サークル「希望」 会員 40 名

発足：1992 年(平成 4 年) 4 月

活動内容：手話の学習、聴覚障がい者との交流

活動日：毎週木曜日 午前 10 時～12 時

活動場所：西部地域福祉センター



市内中学校での福祉学習の様子

また、聴覚障がい者の歴史や背景・困り事を学び、手先だけの手話学習にならないように留意し、聴覚障がい者との話し合いを通じて共に歩む活動を続けることが大切です。

文：手話サークル「希望」中村、小野崎

学びたい気持ちと、好奇心があふれていました！



手話サークル「希望」定例会の様子

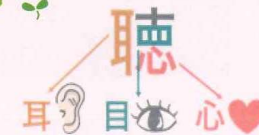
手話サークル「希望」の定例会を見学してきました。毎週開催なのに参加率が 8 割と高く驚きました。好奇心と学びたい気持ちをお互いに尊重し、みなさん楽しく過ごされていました。アクティビティを多く取り入れた内容で、聞こえない人も聞こえる人も、心の広いおらかな方がたくさんいらして、賑やかな雰囲気づくりを心掛けることで、お互いのコミュニケーション力がアップしているのでしょう。

取材：心のふれあいボランティア「ひびき」高橋

心のふれあいボランティア「ひびき」

「ひびき」の活動

私たちは、個人宅や高齢者介護施設を訪問し、入居者やデイサービスを利用されている方々に寄り添い、話を聴かせて頂く傾聴活動を行っている団体です。



話を聞かせていただく…

傾聴とは、相手の話に「耳」だけでなく「目」や「心」を傾け、真摯な姿勢で相手の立場に立って、気持ちに共感しながら理解を示すことで、心のケアができるコミュニケーション技術です。

相手の話の善悪や好き嫌いの評価をすることなく聴くこと(自分の価値観を押し付けない)。また、相手の話を否定せず、なぜそのように考えるようになったのか、その背景に肯定的な関心を持って心に寄り添って聴くことです。

年間の活動

○定例会の開催(年 3 回)

会の運営についての話し合いや外部講師を招いての勉強会です。

○研修会の開催(年 2 回)

会員の親睦や活動を通じての悩みや課題について話し合う場です。

○会報「ひびき」の発行(年 2 回)

活動報告や今後の活動予定、テーマに基づいた会員からの投稿文等を掲載しています。

○傾聴ボランティア養成講座の開催(年 1 回)

傾聴の理解者を増やすと同時に、会員の募集を兼ねて実施しています。



定例会の様子



養成講座の様子

心のふれあいボランティア「ひびき」 会員 47 名

発足：2005 年(平成 17 年) 7 月

活動内容：施設や個人宅での傾聴活動、養成講座の開催、他

活動日：月 1 回 1 時間

活動場所：市内高齢者介護施設・個人宅

文：心のふれあいボランティア「ひびき」高橋

誰かと話すことの楽しさを実感しました！

高齢者施設での活動に同行しました。利用者の方と向き合い、ときに相づちを打ち、落ち着いた話を聞いている姿に感心しました。他の利用者さんもそれぞれに自由な時間を過ごしていて、いい感じでした。個人宅は 2 人 1 組での活動と伺いましたが、組んでいる方を信頼してコミュニケーションが取れているからこそできることだと思います。新型コロナは 5 類に移行しましたが、それでも傾聴活動を続けていくことは大変なことだと思います。

今日は、とても素敵な時間を過ごさせていただきありがとうございます。取材：手話サークル「希望」伊藤

